

手芸倶楽部新聞

2014年
6月10日号
第12号

第十二回の手芸倶楽部もにぎやかにスタート。今回の造花アレンジメントは、季節先取りのほおずきと、ラベンダー。コロンとしたほおずきがアクセントになるアレンジができて、ありがとうございました。

裁縫は、前回ご紹介した金魚巾着を作られる方が数名、目の口ポーチを作られる方が一名、ポケットティッシュ入れを作られた方が一名いらっしゃいました。特にポケットティッシュ入れを作られた方は、何年かぶりのお裁縫で躊躇されていたのですが、「失敗してもいいじゃない」と職員と布遊びをしていたと、だんだんやる気モードに。作り出したら、職員の口頭での説明だけで、すいすい縫ってその場で仕上げ。お待ち帰りいただけました。

「あんでるせん手芸」もこんなにたくさんできあがりしました。「私もやってみる」の声も聞かれました。



伊藤機能訓練指導員より

完成したお花は入居者様の部屋やユニットの玄関に飾っていただきます。見てみると、気持ち華やかになりますね。

次回は六月二十三日(月)、地域交流室にて十五時より開催予定です。ご見学も大歓迎です。

手芸のツツ

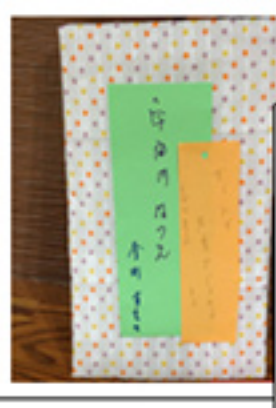
縫い物はハードルの高いプログラム。以前は得意だった方も、何年もやっとなければ自信もなくなりそうです。お話ししても、たいていは「手が震えるからだめ」「目がしょぼしょぼするから」と断られます。その様な時は無理強いをせず、職員が縫い物をしていてるところを覗いて頂きます。「あら、そんな縫い方で良いの?」「よく縫えてるわよ」と、興味を持ち、声をかけて下さる方には「ちょっとやってみませんか」と再度お誘いしてみます。今は何個も作品をつくっている方々も皆、最初は「私はできない」と仰った方々なのです。

新メニュー紹介

手芸倶楽部では作業がマンネリにならない様、新しいプログラムを順次用意しています。こちらは新プログラムのポケットティッシュ入れです。運針のできるかたなら十分ほどで仕上がるので、飽きずに作業でき、縫い物に自信がつけます。



また、縫い物は苦手、もしくは針等危ない物を渡せない方に、接着剤と布で作るフォトフレームもご用意しています。左端は七夕の短冊に素晴らしい名言を書いて下さったので、ご本人と一緒に布遊びし台紙に貼りました。これも、楽しいですよ。



編集後記：「母の日にプレゼントもらったからお返ししたくて」と、オリジナルデザインの和風巾着を縫い上げ、お嫁さんにプレゼントされた利用者様。いいお姑さんですよ！「お友達が来てくれた時に、土産のお礼に渡したいから」と自費で布を購入し、せっせと複数の化粧ポーチを作られる利用者様。「いついつに来るからいつまでに作らなくちゃ」と張り切ってます。4丁目3番地のミニ手芸倶楽部は不定期で14時より開催中。まずは431番にご連絡くださいね(平戸)

